

視点の先の未来を見つめて a-view

[ナビュー] Nichiha across the view

平成28年7月1日発行

2016
SUMMER
Vol.458

60th
Anniversary
おかげさまで60周年
これからも歩み続けます

「建築・新時代の仕事」が 未来を拓く

東京大学教授
松村秀一



Contents

02 | 「建築・新時代の仕事」が未来を拓く

10 | 新商品紹介

18 | Topics & More



「建築・新時代の仕事」が未来を拓く
楽しく豊かな生活の「場」づくりに取り組む実践者

60歳近い僕らの世代は、名刺交換をしたら大体、お互いの人柄や人生の想像がつくんですね。働くだけでいい時代を生きてきたから、この人はせいぜい趣味で走っているぐらいかなとか。「東京マラソン出た？」と聞くと、「だよ、そういうタイプだもんね」といって感心で、なんとなく想像できる。だから昔は住まいについても、「3LDK」「4LDK」で良かったし、戸建住宅でもプランは大体決まっていた。「1200㎡ですか？ならこんな感じでしょっか」「あなたの年収からすると、坪単価は50万くらいでしょっか」と、型に分けて、それでも充実した人生が送れる住宅でした。

ところが、団塊ジュニアやさらにその下の世代、70年代以降に生まれた人たちは、日本をある種象徴するような出来事がすべて終わって、日本社会全体がどう動き、どういことになっていくのか、その中で自分が乗っかっていけばどうなるのか、という物語があまり無い時代に育ち、大人になり働いてきている。なおかつ、当たり前前に90歳ぐらいまで生きる時代になった。

たとえ企業社会にいたとしても、20歳前後

人

「箱の産業」から「場の産業」へ
転換する時代においての
生き方、暮らし方の価値観の
変化をどのようにお考えですか？

共有できる物語のない時代

「箱の産業」から「場の産業」へ
転換する時代においての
生き方、暮らし方の価値観の
変化をどのようにお考えですか？

典型的な価値観を共有できた高度経済成長の時代において、例えばローンを組んでマイホームを購入するという目標意識がありました。家としての性能がきちんと設えられた箱(新築住宅)をきちんとデリバリーするための産業が「箱の産業」。それに対し、共有できる物語はなく、住宅を所有することに対する共通認識は希薄になり、個人個人がそれぞれのライフスタイルに合った暮らし方や住まいを選択する時代の産業を「場の産業」と捉えます。

振り返れば、今から7年前の2009年、弊誌特集『住宅産業の新たな道標』での松村教授へのインタビューにおいて、新たな住宅産業像として「場の産業」を提言されていました。「あれから大きく変わっていませんよ」と松村教授。しかし、全国にある約6000万戸もの膨大な住宅ストックを、人々の楽しく豊かな生活の「場」として仕立て直し、組立て直す、新しいタイプの仕事の分野をつくり上げていく時機の到来を確信されています。自然に体が動き始め、「場の産業」を実践する人たちが次々と姿を現し始めているから。

過去十数年に渡る実践者との交流をはじめ、一昨年、数々の実践者たちと公開意見交換会を重ねてきた松村教授に、パイオニアの方々の仕事を通して芽生えている変化についてお伺いしました。

「建築・新時代の仕事」が未来を拓く

楽しく
豊かな生活の
「場」づくりに
取り組む実践者

「箱の産業」から「場の産業」へ

東京大学大学院の松村秀一教授は、住宅産業の大転換期にある今、建築産業・住宅産業の新たな仕事の可能性をこう提唱されます。

典型的な価値観を共有できた高度経済成長の時代において、例えばローンを組んでマイホームを購入するという目標意識がありました。家としての性能がきちんと設えられた箱(新築住宅)をきちんとデリバリーするための産業が「箱の産業」。それに対し、共有できる物語はなく、住宅を所有することに対する共通認識は希薄になり、個人個人がそれぞれのライフスタイルに合った暮らし方や住まいを選択する時代の産業を「場の産業」と捉えます。

振り返れば、今から7年前の2009年、弊誌特集『住宅産業の新たな道標』での松村教授へのインタビューにおいて、新たな住宅産業像として「場の産業」を提言されていました。

「あれから大きく変わっていませんよ」と松村教授。しかし、全国にある約6000万戸もの膨大な住宅ストックを、人々の楽しく豊かな生活の「場」として仕立て直し、組立て直す、新しいタイプの仕事の分野をつくり上げていく時機の到来を確信されています。自然に体が動き始め、「場の産業」を実践する人たちが次々と姿を現し始めているから。

過去十数年に渡る実践者との交流をはじめ、一昨年、数々の実践者たちと公開意見交換会を重ねてきた松村教授に、パイオニアの方々の仕事を通して芽生えている変化についてお伺いしました。

東京大学教授

松村秀一

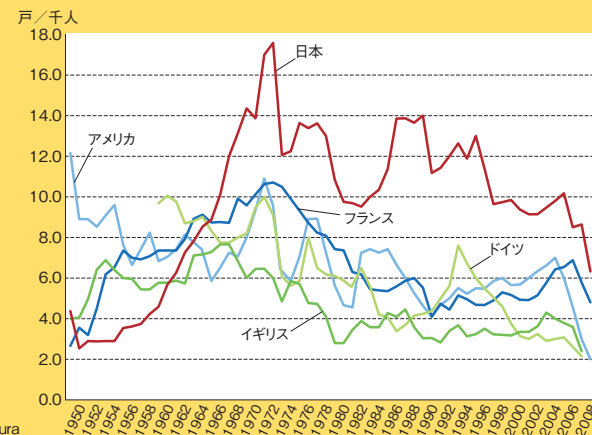
Shuichi Matsumura

Profile

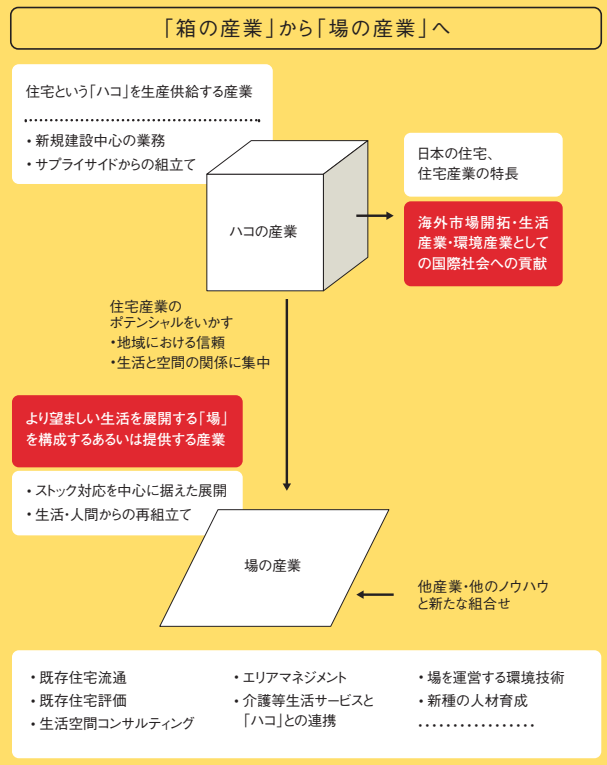
1957年、兵庫県生まれ。
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士、工学博士。
HEAD研究会代表理事、日本建築学会副会長。
2006年より東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。
05年、日本建築学会賞(論文)、08年、16年、都市住宅学会賞(著作)、15年、日本建築学会賞(著作賞)、16年、日本ファンリタイムマネジメント大賞(功績)を受賞。
著書に「住宅」という考え方—20世紀的住宅の系譜(東京大学出版会)、「団地再生—蘇る欧米の集合住宅」(彰国社)、「建築とモノ世界をつなぐ—モノ・ヒト・産業、そして未来」(彰国社)、「住に纏わる建築の夢—ダイマキシン居住機械からガンツ構法」(東洋書店)、「建築再生の進め方—ストック時代の建築学入門」(編著、市ヶ谷出版社)、「建築生産」(編著、市ヶ谷出版社)、「箱の産業—プレハブ住宅技術者たちの証言」(共著、彰国社)、「建築—新しい仕事のかたち—箱の産業から場の産業へ」(彰国社)、「3D図解による建築構法」(編著、市ヶ谷出版社)、「場の産業 実践論」(編、彰国社)、「建築再生学—考え方・進め方・実践例」(市ヶ谷出版社)、他多数。



図1 日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツを比較した人口千人当たりの住宅着工数推移



Shuichi Matsumura





「アーツ千代田3331」は、10年前に廃校になった旧千代田区立練成中学校を年間80万人(2013年)が利用するアートセンターに生まれ変わった「場」の再生です。秋葉原と上野の間にアーティストが集まる新しい形の拠点をつくりたい

リノベーションの デザインマインド

先生がご著書で紹介している「アーツ千代田3331」も、6年経過した今、いろいろな人に愛され続けていますね。

吉原さんに「デザイン」について訊ねてみた時、「管理人の杉山君、彼が冷泉荘の「デザイン」そのものです」と。建物に彼がいるから、いろんな人が訪れてくる。彼自身が冷泉荘をアピールしていると。看板の字体とかロゴとかじゃない、デザインは「サンダー杉山」であって、彼を起用したことで、建物が彼の色に完全に染まっていくわけです。すごい、面白いなあと。ある意味、リアルだし。もちろん建物が持つ個性はよく見るとあるけれど、それを新しいコンテンツで新しいストーリー、物語みたいなものを組み込んで別の個性を街と建物につくりあげる。吉原さんがやっていらつやるのは、そういう仕事なんですよ。そして一方で、自分で物語をつくらうとする人たち、そこに住みこむ人たち。

福岡の博多では吉原住宅の吉原勝巳さんが、リノベーションによる老朽ビルの再生による、場づくりに取り組んでいます。吉原さんは青木さんよりも世代が少し上の50代ですが、やっぱり親から継いだのかと思えてくるわけですね。

結局、「賃貸の価値は誰が住んでいるか？」ということに青木さんは気づいた。シェアハウスの世代では、誰と一緒にこのマンションに住むの？という人が住んでいるの？趣味が合うといけれど、ということが問題になってくる。SNSで発信された情報を見て、自分の好きな感じであれば、次に空きが出たらここに住まわせて欲しいと、昔風の言い方ですが、「ミニミニ」を求めてくるわけです。そこに出てきたミニミニが価値を持っていて、古い、薄汚れているということより、はるかに重要であることに気づいた。ひよつとしたら家賃も高く設定できるわけですし、フルで家賃収入が得られるようになれば、その収入で修繕もできるようになる。いろんなことが回っていくわけです。そういう現象を見ていると、あきらかに生き方の問題といつてもいいんじゃないかと思えてくるわけですね。

動産物件があり、空室率が4割、5割というようなものを幾つも持っていました。17年間勤めた会社を辞め、家主業を継いだけれども、空室率がどんどん上がっていく状況で、放っておいたら家賃収入がゼロになっちゃうんじゃないかと、彼は相当、暗澹たる気持ちになったそうです。

彼は、築57年の昭和レトロなビル「冷泉荘」の再生に、「文化」をつくらうとしました。「福岡の古い建物を大切に考える考え方の実践(ビルストック活用)」を基本理念に、「ひと」「まち」「文化」を大切に思う人たちが集まる建物「リノベーションミュージアム冷泉荘」としてスタートしました。博多文化のメッカともいえる場所にあり、歴史と文化があるものだから、マンションでその地域の昔の写真を展示したり、面白いイベントを企画したり、年に何回か文化祭を始めるようになった。その繰り返しから次第に認知度が上がり、空室が埋まっていった。階下に面白い飲食店を入れて、上層階は設計事務所やデザイン事務所などクリエイター系のオフィスになっています。その人たちの気転換用に大きな部屋に卓球台を置いた。オフィスが一緒に入っている者同士が仲良く卓球するわけだから、そこに「ミニミニ」が生まれ、スモールビジネスだけれど面白い人たちが集まっているよね、と活気が生まれていった。

なによりその管理人が一番面白いです。不思議なフアッションをしている30歳くらいの若者ですが、九州大学の芸術工学部のドクターで、古楽器研究者でもあり、その名前と風貌から「サンダー杉山」と呼ばれていて、管理人室は彼のテイストで満たされているわけです。カウンスラーにはターンテーブルがあつて、彼の好きな古い日本の歌謡曲のレコードがあつたり。彼がテナントを呼んできた時、テナントの面接をしている。彼が選んでいるので、全体が彼のテイストになっていく。

隣に公園があり、今は公園側から入ることができませんが、当初は全く繋がっていません。公園と学校が高い塀で隔てられていました。「コマンドA」はこれを繋げて欲しいという条件を千代田区に出した。そもそも公園は千代田区のもので、公園は建物のアクセスのためにあるわけじゃないと言われる恐れもありましたが、そこは区の決断によりアクセスできるようにした。鬱蒼とした公園だったので、公園の整備も依頼して。その場所は、大きなクスノキとエントランスの木製デッキで訪問者を出迎える居心地のいい空間へと変貌を遂げ、全くイメージが変わりました。

中はというと、中学校で使っていた頃の音楽室の黒板や水洗い場、下駄箱など当時の面影も残り、ひとつひとつ考えて作りこんでいます。何だけ変えればいいのか、というのはデザインセンスですね。デザインマインドがないと全部新しくしちゃうわけですよ。建て替えた方が安かったねという話になるのは、全部をまんべんなく新品に入れ替えるという発想ですよ。リノベーションにおいて、既存のものを利用するというのは、どこまで残して、何だけ変えればいいのかを見極めることでもある。トータルコストのコントロールの幅がめちゃくちゃあるんですよ。ここは電球だけ、水洗金具だけ変えておけば雰囲気あるよねとか。フローリング貼るだけでカッコいいよねとか。

建築ストックのリノベーションをテーマに建築設計やコンサルティングをされているブルースタジオの大島芳彦さんは、「リフォーム」と「リノベーション」



写真提供:3331 Arts Chiyoda



写真提供:3331 Arts Chiyoda

千代田区の「アーツ千代田3331」。地下1階、地上3階の館内には、アートギャラリー、オフィス、カフェなどが入居。展示会だけでなくワークショップや講演会に利用されている。第一線で活躍するアーティストやクリエイターから、地域の子どもたちまでが集い、日常的に創造力を育む文化的活動に触れることができる。



写真提供:吉原住宅

冷泉荘のデザイン、「サンダー杉山」さんの管理人室。



写真提供:吉原住宅

福岡の「リノベーションミュージアム冷泉荘」。通りを挟んだ向かいに冷泉公園がある。その公園は博多どんたくの集合場所でもあり、追いの山時は博多祇園山笠がずらりと並ぶ。



「何をやってみたいのか」ということも大事なんですよ。ね。「みんな一緒に住んでみたい」とか、「文房具屋でもいい。リノベや街づくり系の人は、結構いろんなことをやっているんですよ。」「文房具屋？」なんて思っただけで、家賃も安いし、街の活性化のためにやってみる。そんな言葉もいっぱいあるんですけど、「みたいなのを、地域での暮らしとしてやってみよう」とか、次につな

「仕」 仕事の活路を見つけたためには、まず自分自身が生活者として高品質な生活をした方がいいです。地域の中で、工務店のおやじさんがめっちゃ面白い生き方しているとか、季節ごとにおもしろい集まりをやっているよね、とか。
つまり、まず自分自身がこれからどう面白く暮らしていくか、ということを考えている人じゃないと出てこない発想や、共感できない事柄がいっぱいある時代になっていくんだから、工務店のおやじさん、設計事務所もそうです、プロだと思っただけを一回やめる。まずはアマチュアというか、生活者としてあなたはどうなの？と。一度キャラにしてみると、組み立てやすくなるんじゃないかと僕は思っているんですけどね。自分の生活者目線で、自分の地域を見てみるってどうなの？と。
また、次の生き方を地域の中で考えるために、「別

民として自分は
何ができるのか

けれど、企業の目的自体を、自分が描かなければならない時代に入ってきた。



江戸一本締めは、おめでたい席で感謝の意を表す風習として、古く江戸時代から受け継がれてきた手締めの文化です。かけ声の「イヨーオ」は、「祝う・祝おう」が語源といわれ、さらに「シャン・シャン・シャン」と三回打つことが三回で合わせて九(苦)となり、最後に「シャン」と一回打つことで苦を払い、「九」に画を加えて「丸」になるとされています。「3331」のマークは、そのリズムを数字で表したもので、ロゴマークもよく見ると、そのリズムを数字で表したもので、「三・三・三・一」の文字からできている。(アーツ千代田3331HPより抜粋)

新築の場合だと工費的に小さな位置づけだけれど、リノベの場合は、サインとかグラフィックデザインがものすごい効力を発揮します。「三三三三 ARTS CYD」のマークも、「千代田区アートセンター」と書かれたら、かなりマズいわけで。リノベ系の仕事では、ハイレベルなグラフィックデザインが求められます。地域にクリエイティブな仕事をしている人たちがいたり、今は遠くに行っているけど、もともと高校が一緒とか。そういうある種のネット

という言葉は違うとよくおっしゃいます。新築を100点とすると、100点に近づけるべく、努力する「リフォーム」に対し、100点を越えるところに目標があつて、120点を獲りにいくのが「リノベション」で、新築より点数が高い何かにできるかというのがリノベションの一番面白いところだ。建物がもともと持っているものの中で何を残すかによって違いが出る。アーツ千代田3331では、入ってすぐ左側のシンポジウムができるスペースに、五線譜が書いてある黒板が残っていますが、それがすごく自然。残した方が断然カッコいい。

企業の目的を
個々で描く時代に

「場の産業」において、地域の工務店さんやビルダーさんの活路はどこにあるのでしょうか？

ワークで「このことならあいつが出来るよね」と仕事がつながる。意外と思われがちですが、デザインはとても重要な要素です。ブルースタジオの大島さんも、グラフィックデザイナーと一緒に組んで仕事をされています。

地

地域の工務店さんやビルダーさんの活路は、僕もわかっているわけではありませんが、方向は明らかに今までと違いますよね。例えばですが、不動産と絡めるとか。でも俺は工務店。不動産



がる可能性に満ちているんだろうなと思います。

仕事は総合的になってくると、誰と組むかという話も出てくる。空き家を流通させる時に、仕上げをきれいにしてあげば人が入るわけじゃないので、例えばここは、先にテナントを決めて、それを前提にリノベを始めるとか。空き家を仲介するようになったら、面白いパン屋さんが入ったとか、変わったレストランが出来たとか、そういう手応えがあるわけです。街なりエリアなり、自分が関わることで面白くなっていく。

思ってた方向に街が動き始めたりすると、自分の生き方にも影響を受けたり。その高品質な生活の実感が次の活動につながり、結果としては新たな仕事のかたちに発展していくと思っています。まずやってみたらいいですよ。(笑)

本日はありがとうございました。



HEAD研究会のシンポジウム。中央に演壇を組み、その四方に向けて4枚のスクリーンを設けたレイアウトにより、シンポジウムの盛り上がり効果が生まれる。中央手前に松村教授。



アーツ千代田3331のメインイベントの風景。

屋ではない「ついで」の人が意外と多い。建物を生懸命建てて、その中から薄い利益をあげて何とかやってきたのが我々。左にあるものを右に動かしているだけの人たちに、建物の質がわかるのか、みたいなね。(笑)普通の人からすれば、不動産業界も工務店も一緒に思えるけれど、全然混じり合わない人たちだったりするんですよ。だから「地域に密着して、これからこういう新しいことをやってみよう」と思ったら、不動産はありですよ。ね。と。えっ？工務店の話をよ先生！となり、結構難しいんですよ。でも、不動産管理業でも何でも、ネットワークを組んで、入居率を上げるためにはどうすべきかと考えると、当然そこには小さくても工事が発生するわけです。
自分の人生を組み立てて物語をつくり出した人たちと同じで、個々の工務店も自分で物語をつくらなければならぬ時代になっているんですよ。今までは、国交省が補助金をつくりましたよ、こっちの方向に社会が動いているみたいですよ、その延長線上でも、ZEHやO・L・T、長期優良住宅、中古流通というテーマ別の対応はあるけれど、昔みたいにそれが物語を示しているわけではないんですよ。
今まで通りの仕事で何とかなる、それプラスαでいく、という感じではもはやない。新築もまだあるし、それで生きていける人もいるでしょうけれど、でも皆そこで競争しようとしても、全体のパイは小さくなっていくわけで。今例に挙げたような不動産の領域はビジネスになるかどうかかわからないけれど、広がりを持っている世界だから、そこと自分どう仕事として関係づけられるか。生き残る道は、非常に個別になっていく可能性が高いでしょうね。
今や、企業として向かっていく先がどこなのかを問われる時代。昔はそれを問われなくてもよかった

MIRAIA
ミライア

“未来”を感じさせる“Mirror”(鏡)の輝き。



COOL
MIRAIA / MEMORIA

常識を覆す新外壁材

窯業系サイディングでは、今まで誰も考えなかった
“鏡面仕上げ”にニチハが挑戦しました。
目指したのは、サイディングらしくないサイディング。

MEMORIA
メモリア

人々の“Memory”(記憶)に残る印象的な壁。



COOL ミライア MIRAIA

“未来”を感じさせる“Mirror”（鏡）の輝き。

これまでのサイディングでは実現不可能と言われていたシルエットが映り込む、驚きの「鏡面フルグロス仕上げ」を実現した“ミライア”
モノカラーとリアリティーを追求した大理石調などの多彩な色ラインナップに加え、フルオーダーの特注色対応を予定しています。

！ 本体	
寸法 (厚み×幅×長さ)	16×455×1820mm (6尺)
標準価格	(税抜)17,000円/枚
重量	約17kg/枚
基材名称	木質系繊維混入セメントけい酸カルシウム板
材料認定	準不燃材料：QM-0639

保証対象	特性
保証対象 製品 本体	<div style="display: flex; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">準耐火 1 時間</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">耐火 4 等級</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">接合 四方 含む 金具</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施工 金具</div> </div>

！ カラーラインナップ（内外装兼用）

 EDM101S ネイキッドホワイト	 EDM1011S ウルシレッド	 EDM1013S ピアノブラック
 EDM109S ロイヤルブルー	 EDM1010S アイビーグリーン	 EDM102S シルキーホワイト
 EDM107S フレッシュピンク	 EDM103S ライトグレー	 EDM105S ペールグリーン
 EDM104S ニュートラルグレー	 EDM106S ベビーブルー	 EDM108S ブルーグレー
 EDM1012S ディープブラウン		

！ 大理石調（内外装兼用）

 EJM101E ペルリーノ	 EJM102E トラパーチン	 EJM103E モカダーク
--	--	--



COOL メモリア MEMORIA

人々の“Memory”（記憶）に残る印象的な壁。

お好みのカラーを自由に組み合わせ、
オリジナルの外観デザインが可能な“メモリア”
15色のカラーパレットに加えて、
フルオーダーの特注色対応を予定。
「アイデア×個性」のクリエイションで、
作るもの・見るものの記憶に残る
印象的な壁面を創造します。

！ 本体

寸法 (厚み×幅×長さ)	16×455×1820mm (6R)	
標準価格	ホワイト (ETM301F) のみ (税抜)7,000円/枚	(税抜)6,500円/枚
重量	約17kg/枚	
基材名称	木質系繊維混入セメントけい酸カルシウム板	
材料認定	準不燃材料：QM-0639	

塗膜特性

保証対象

光触媒コート ※1
ホワイトのみ

マイクロガード
ホワイト以外

保証対象
製品
本体

保証対象
変色・褪色
10年

特性

プラチナコート

準耐火
1時間

耐火
4等級

接合
四方
色いしやくり

施工
金具

OS
ワレトキモノ

ホワイト以外

カラーラインナップ (内外装兼用)

光触媒コート ※1

ETM301F ホワイト	EFM311F ワインレッド	EFM314F ブラック
EFM305F ラベンダー	EFM307F オリーブ	EFM301F アイボリー
EFM306F ライトグレー	EFM304F オレンジ	EFM302F ライトベージュ
EFM313F ダークブラウン	EFM308F ネーブル	EFM312F ネイビー
EFM303F ベージュ	EFM310F ブラウン	EFM309F グレー

※1 光触媒コート COOL/メモリア(ホワイト色)の光触媒コートは、マイクロガードと同様に高いセルフクリーニング力を発揮します。



ニチハの環境との共生や建物のロングライフ化への取り組みが、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」で2年連続高い評価を受けました。

「オフセットサイディングを利用した公共建築物の価値向上に向けた取り組み」が、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2016」最優秀レジリエンス賞(住宅・建築)を受賞しました。

「オフセットサイディング」による「CO₂固定量の見える化」を公共建築物まで拡大し、自治体に対して低炭素化への貢献量を認定するという当社の新たな活動について、民間から公的機関への認証という点で新規性があり、一般住宅の居住者のみならず地域コミュニティの人々に対して環境貢献意識を喚起する取り組みであるとして、高い評価を受けました。



ジャパン・レジリエンス・アワード

2016



三重県大台町の「報徳診療所」

「ニチハエコ外壁プロジェクト」の取り組みが、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2015」優秀賞を受賞しました。

「ニチハエコ外壁プロジェクト」は、国産木材資源の利用推進のみならず、外壁自体の強度向上、森林保全による土砂崩れなどの災害対策、低炭素化など、国土強靱化に多角的に貢献するものとして、高い評価を受けました。



ジャパン・レジリエンス・アワード

2015



ニチハは創業以来培ってきた木材資源の活用技術を生かし、原料に国産木材チップを使用した外壁材「オフセットサイディング」、および国産木材の中でも間伐材に限定した外壁材「カーボンオフセットサイディング」の生産・普及を通じて、日本の森林資源を守り、地球温暖化防止に貢献する活動を行っています。その取り組みの総称が「ニチハエコ外壁プロジェクト」です。

ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)とは?

安倍内閣が提唱する国土強靱化の実現に向けて創設され、全国各地で展開されている「強靱化」に関する先進的な活動を発掘して評価し、表彰する制度です。

「100%国産木材+セメント」ニチハのオフセットサイディング



国産木材チップを活用した「張るだけで環境貢献」できる地球上に優しいニチハだけが持つ外壁材です。

張るだけで環境貢献「ニチハのエコ外壁」

オフセットサイディングの最大の特長は、国産木材の利用促進とCO₂固定化。張るだけで環境貢献ができます。

- 1 背板や端材となる部分
間伐材・国産材の端材を活用。おもに建築用資材になる部分
- 2 製材後の端材を木材チップにし、外壁材の原料に。40年以上培ってきたニチハの独自技術です。
- 3 外壁材として使用することで、木が吸収したCO₂の放出を防止(固定化)。

「オフセットサイディング」人気商品



Fuge
フュージェ

超高耐候塗料の採用とシーリングレス仕様で、仕上がりの美しさとメンテナンスの大幅削減を実現した外壁材です。



COOL

常識を覆す「鏡面仕上げ」や、組み合わせを楽しむ多彩な色揃えなど、サイディングの新しい姿を提案する外壁材です。

2016	2015	2014	2013	2012
<p>オフセットサイディングを利用した公共建築物の価値向上に向けた取り組みが「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2016」最優秀レジリエンス賞(住宅・建築)を受賞しました。</p>	<p>カーボンオフセットサイディングが「ウッドデザイン賞2015」奨励賞(審査委員賞)を受賞しました。F.U.B.が「ウッドデザイン賞2015」を受賞しました。</p>	<p>カーボンオフセットサイディングが「2015間伐・間伐材利用コンクール」特別賞を受賞しました。</p>	<p>F.U.B.が「グッドデザイン賞」を受賞しました。</p>	<p>キヌタシタグループが「グッドデザイン賞」を受賞しました。</p>
		<p>ニチハエコ外壁プロジェクトが「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2015」優秀賞(企業産業部)を受賞しました。</p>	<p>「第10回エコロダックス大賞」優秀賞を受賞しました。</p>	
		<p>日経アーキテクチャ「日経ホームビルダー」主催「ECHO CITY 製品大賞」特別賞を受賞しました。</p>	<p>「特別賞」建材・設備メーカーから応募された製品を対象に審査委員会により選出。2014年2月発表</p>	

ニチハの取り組みが社会に高く評価されました。



NICHIHA SIDING AWARD 2016 開催中

本年もNICHIHA SIDING AWARD2016を開催いたします。
審査委員長にインテリアデザイナー、杉本貴志氏、建築家の難波和彦氏をお迎えし、ニチハ製品をご採用いただいた作品を審査いただきます。



杉本貴志

インテリアデザイナー。1973年(株)スーパーポテトを設立。商業空間のデザインを数多く手がけ、バー、レストラン、ホテルの内装デザインから複合施設の総合プロデュースまで幅広い分野で活躍。1984、1985年毎日デザイン賞連続受賞。2008年米紙InteriorDesign Magazineより「Hall of Fame Awards」を受賞。



難波和彦

建築家・東京大学名誉教授。放送大学客員教授。1977年一級建築士事務所(株)界工作舎を設立。代表作に「箱の家」シリーズがあり、標準化・多様化・サステナビリティをコンセプトに掲げた都市型住宅のプロトタイプとしてデザイン・開発を手がける。グッドインテリアデザイン賞、新建築吉岡賞、住宅建築賞、JIA環境建築賞、建築学会賞業績賞など多数受賞。

下記の応募要項で、建設会社様、設計事務所様、リフォーム会社様等の専門家向けとして実施いたします。

対象作品：弊社製品(金属製外装材含む)を外装あるいは内装に使用し、2015年8月以降に新築またはリフォームされた建築物。

締切日：2016年7月31日(日) ※当日消印有効

審査基準：ニチハ標準施工で商品の柄や特性をうまく活かし、建て主様の意向に沿い、時流に合った外観デザインであること。また、周囲との調和や外構デザインにも配慮されている作品であるかについて、施工写真や設計要旨から判断のうえ審査します。

賞品：住宅部門、非住宅部門において、グランプリ、プラチナ賞、ゴールド賞をそれぞれ1点選出します。

住宅部門・非住宅部門	◆グランプリ	2点30万円(旅行クーポン券)、建て主様に5万円(旅行クーポン券)
	◆プラチナ賞	2点10万円(旅行クーポン券)、建て主様に3万円(旅行クーポン券)
	◆ゴールド賞	2点 5万円(旅行クーポン券)、建て主様に2万円(旅行クーポン券)
住宅部門・非住宅部門あわせて	◆入賞	10点 3万円(旅行クーポン券)、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
	◆Fu-ge賞	数点 3万円(旅行クーポン券)、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
	◆リフォーム賞	数点 3万円(旅行クーポン券)、建て主様に1万円(旅行クーポン券)

応募方法：専用の応募用紙を最寄りの弊社営業所からお取り寄せいただくか、ニチハHPよりダウンロードしてご応募ください。



国交省が良質ストックの循環で新施策 協議会設立を促し仕組み作りを支援

ストックマーケットの整備が大きなテーマとなるなか、国土交通省が2016年度の事業として「住宅ストック維持・向上促進事業」を実施する。工務店や宅建業者だけでなく、金融機関や検査機関なども含めた協議会設立を促し、その活動に補助を行う。

住宅市場がストックマーケットの様相を色濃くするなか、その市場整備が急ピッチで進められている。中古住宅流通やリフォームのマーケットをいかに拡大していくかは住宅産業の大きなテーマである。いままでもなく、行政施策もこれらに対する取り組みを加速している。

今、良質な住宅ストックが市場において適正に評価されないことが大きな課題となっている。建物価値はリフォームやメンテナンスの実施に関わらず時間とともに一律に減額され、20~25年でゼロとなってしまうのが現実だ。

こうしたなか国土交通省はさまざまな施策を行なってきた。

長期優良住宅や住宅性能表示制度、瑕疵保険、インスペクション、住宅履歴などの普及に取り組み。2014年には「中古建て住宅に係る建物評価の改善に向けた指針」を策定し、適切なリフォームを行なうことで使用価値が回復・向上するという原則を明記した。また、住宅を基礎・躯体と内外装設備に分けて評価、住宅全体の価値を算出する方法も示した。

これらの取り組みにより、中古住宅を適正に評価する環境は徐々に整ってきたといえるだろう。

**仕組みの開発・普及に
上限2000万円を補助**

こうしたなかで国土交通省が2016年度の事業として「住宅ストック維持・向上促進事業」を打ち出した。評価の環境を整うなか、金融や流通に結び付けていくことが大きな狙いだ。

同事業は、中古住宅の流通に関連する事業者が連携する協議会設立を促し、質の維持・向上や評価、流通、金融等の一体的な取り組みを支援するものである。

具体的には、既存住宅の商品化・ブランド化をプロデュースする企画者を中心とし、良質な住宅を供給する工務店や建築士、品質をチェックする検査事業者や保険法人、資産価値を評価する宅建業者や金融機関などが連携することを想定。この事業者が連携する協議会が、長期優良住宅や住宅性能表示、瑕疵保険、インスペクション、住宅履歴などを活用し、既存住宅の質と価値を評価する仕組みを検討する。

国土交通省は、こうした維持・向上・評価・流通・金融などを一体化した仕組みの開発に対して補助を行う。また、その仕組みを消費者などに周知するためのホームページ、事業者や消費者に対する説明会の開催などについても補助を行う。こうした「仕組みの開発、普及に係る費用」に対する補助金額は、事業者当たり上限2000万円だ。

その一方で、開発した仕組みの試行も支援。具体的には、仕組みを利用して10年後に買取保証するといった住宅を提供する場合、「住宅の質の適切な

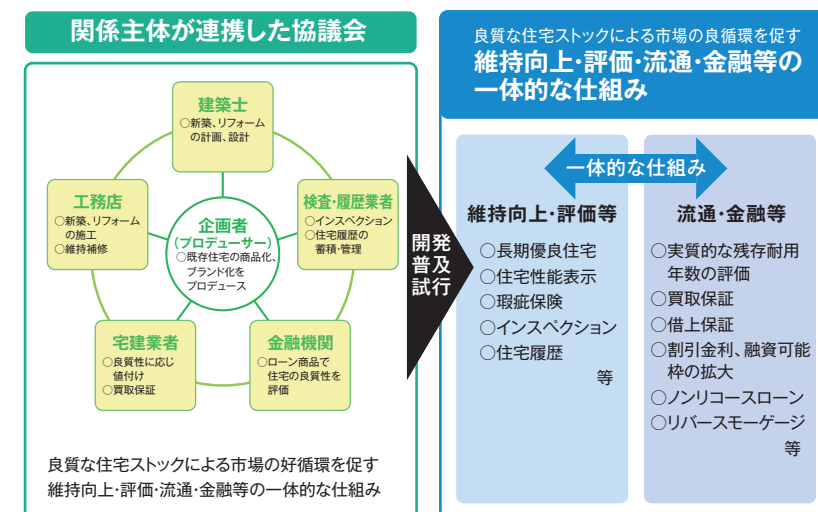
維持・向上に要する経費」や「開発した仕組みに対応するための質の向上に要する経費」を補助する。前者は定期的なインスペクションの実施や住宅履歴の作成、瑕疵保険への加入などが対象。また、後者は新築時の掛かり増し工事やリフォーム工事が対象だ。補助金額は、これら二つをあわせて一戸当たり100万円が上限となっている。

良質なストックを循環させていくためには、新築時やリフォームを通じて質の高い住宅を蓄積していくことがベールとなる。加えて、適切な維持・メンテナンスを積み重ね、流通時において正しく評価することが求められる。

こうした一連の流れには多くの事業者が関わる。「住宅ストック維持・向上促進事業」は、こうした事業者が連携し、新たなモデルを構築することを促す。

国土交通省では、この事業により仕組みが普及し、取引事例が蓄積されることで、良質な住宅が適正に評価される市場構造の定着を目指している。

住宅ストック維持・向上促進事業のイメージ



出典:国土交通省

常識を覆す新外壁材

COOL

MIRAIA / MEMORIA

窯業系サイディングでは、今まで誰も考えなかった
“鏡面仕上げ”にニチハが挑戦しました。
目指したのは、サイディングらしくないサイディング。



詳しくはCOOL特設サイトをご覧ください



ミライア
MIRAIA

“未来”を感じさせる
“Mirror”(鏡)の輝き。



メモリア
MEMORIA

人々の“Memory”(記憶)に残る
印象的な壁。

ニチハ株式会社

名古屋市中区錦二丁目18番19号
TEL (052) 220-5111
編集/ナビュー編集室
<http://www.nichiha.co.jp/>

編集後記

友人らと「老後はこのメンバーでシェアハウスだ!」と盛り上がる場合があります。来年退職する恩師は、ボランティア団体に登録しました。子供が独立して夫婦二人きりになった友人は、リビングに寝心地抜群のソファを買いました。私たちは皆、自分の居場所を求めているのだと感じます。それは自分の家自分の部屋というスペースとしての居場所も含め、「ここにいればいい」「ここにいていい」と思える心の置き場とでもいいですか。SNSで多くの人とつながっていても孤独、あるいは家族といるから孤独、などという逆説的な現象もある現代、「自分さがし」「自分の居場所さがし」は続きます。私たちの意識が「これでなければならない」から「これでいいのだ」へ変われば、自分の居場所など探さなくても良くなるかもしれません。(S)

NHKの「人生デザインU-29」を楽しみに見えています。タイトルの意味は“自らの人生をデザインしようと奮闘中の29歳以下代表”。U-29世代の新たな働き方や生き方のチャレンジを各回1人ずつ、まるごとドキュメントする番組です。グラフィックデザイナー、靴磨き職人、一軒家で暮らすように過ごすデイサービス施設、宅老所を運営する若者など、一般的な職業名では括れない活動を仕事にしようとする、彼ら彼女らの静かな力強さに感銘を覚えます。社会の歪みを肌で感じとり、手の届く範囲の人々の笑顔を大切にしたいと奮闘する彼らを支えるまわりの大人たちもまた、影響を受けているように感じます。そして、今号の特集にある「高品質低空飛行」を実践する若者代表のようにも映りました。松村先生のお話は、建築に限らず「仕事とは?」について考えさせられるインタビューでもありました。(T)